

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

令和2年度

事業報告書及び決算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日



EXPO'90
FOUNDATION

令和2年度

I. 事業

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し発展させることを目的に、各種事業を行っている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の感染拡大により、「コスモス国際賞」関連事業をはじめ、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業の多くの事業を中止・延期することになった。ただし、助成事業の審査や、感染症の影響を受けて新たに実施したシンポジウム等は、WEB会議システムを活用して実施すると共に、花の万博30周年事業については十分な感染防止策を施した上で開催した。さらにポストコロナを見据えた特集を掲載した情報誌の発刊等を行った。

1. 顕彰事業

(1) コスモス国際賞

花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の2020年（第28回）は、感染症の拡大懸念から、令和元年度より実施していた推薦書の取りまとめのみ行い、受賞者の選考及び授賞式等の関連行事を2021年に繰り延べた。

なお、コスモス賞歴代受賞者等によるポストコロナを展望したコラムを協会情報誌に掲載した他、国際WEBシンポジウムを開催した。

(2) BIE コスモス賞

協会の存在及びコスモス賞の国際的なPRのため、平成19年度よりBIE（博覧会国際事務局（本部パリ））と開催国の万博協会が行う「BIE コスモス賞」については、2020年ドバイ国際博覧会での実施に向けて調整していたが、感染症の世界的流行の影響で博覧会が2021年に延期された。これに伴い、令和2年度は本賞の実施方法についてBIEと協議した。

(3) 全国花のまちづくりコンクール事業

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、第30回（2020年）花のまちづくりコンクールを実施した。

応募数：1,690件

入 賞：農林水産大臣賞、国土交通大臣賞 各 2 点及び文部科学大臣賞 1 点をはじめ 67 点

開催日（表彰式）：感染症拡大のため中止（受賞者に書面にて通知）

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会（当協会、（公財）日本花の会、（公財）都市緑化機構、（一財）日本花普及センター）

2. 助成・協働事業

（1）花博自然環境助成事業

花の万博の基本理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施した。

被災地の復興活動支援については、東日本大震災の被災 6 県（青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉）、熊本地震被災 2 県（熊本県、大分県）に加えて、平成 30 年から令和 2 年にかけて全国的に猛威を振るった豪雨による被災地も対象地域とし、阪急電鉄株式会社からの寄附金を充当して実施した。

ア. 令和 2 年度助成事業

令和 2 年度は、別表 1 の 25 団体に対し、総額事業費 7,957,365 円の助成を行った。また、感染症拡大の影響を受けた 5 団体が、事業の全体または一部を次年度に改めて実施することとなったため、それに当たる助成金 3,936,830 円を令和 3 年度に追加支出する予定。

（別表 1）

	助成団体名	事業名
調 査 研 究	ひろしま野生動物研究グループ	ノネコは何を食べている？－在来種への影響を探る－
	NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ	金華山島のシカの出産・繁殖調査と環境学習素材化
	タンポポ調査・西日本実行委員会	タンポポ調査・西日本 2020
	モンゴル森林再生促進研究会	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発
	NPO 法人知的コミュニケーション研究機関連合	市原市における粘菌生息地の」特定と生息条件
活 動 ・ 行 催 事	特定非営利活動法人自然環境ネットワーク・射水市 ビオトープ協会	生物多様性保存型里山ビオトープの形成に関する事業
	ひらかたプレーパーク実行委員会	子どもの冒険遊び場プレーパークを支える人材育成 事業
	第 7 回国際カキシンポジウム実行委員会	第 7 回国際カキシンポジウム
	源氏藤袴会	藤袴香る歴史・文化・伝統の町づくり
	公益財団法人金沢子ども科学財団	里山の自然を学ぼう～角間の里山自然体験
	東北動物研究会	第 7 回全国風穴サミット・第 4 回東北植物サミット

	助成団体名	事業名
活動・行催事	ウミガメネットワーク	伊勢湾にやってくるアカウミガメの実態
	特定非営利活動法人はちろうプロジェクト	大湊村での外来生物の駆除と在来生物の保全活動
	つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を総合的に学ぶ体験的環境学習
	番所山を愛する会	白浜町番所山に桔梗平を復活させよう
	グリーンボランティア「いこま宝の里」	” 明るい森づくり ” 事業
	白鷺学校運営協議会	姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業
復興活動支援	特定非営利活動法人スマイルシード	被災地の身近な地域の「里地里山農地の景観再生」活動
	福興浜団	菜の花迷路一般開放に向けた菜の花畑整備
	坪井川遊水地の会	坪井川遊水地桜並木プロジェクト
	久慈市立小袖小学校PTA	天與の花を咲かす喜びー小袖プロジェクトⅡー
	吉里吉里花いっぱい運動実行委員会	吉里吉里花いっぱい運動
	小高はなみちプロジェクトチーム	小高まちなか菜園・親子菜園スクール
	NPO 法人菜の花プロジェクトネットワーク	東日本大震災復興支援南相馬市” 油菜のさと ” 推進事業
	NPO 法人ハーブとスローフードのまちづくり	豪雨により水没した畑に盛土をして花園にする活動

イ. 令和3年度助成事業

令和3年度実施分については、次のとおり助成団体を決定した。

①公募及び審査

公募期間：令和2年8月3日（月）～9月11日（金）

応募数：56件（調査研究13件、活動・行催事36件、復興活動支援7件）

審査期間：令和2年10月～令和3年2月

②助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果を令和3年2月24日付けで理事長に答申し、令和3年度の助成対象30件（調査研究6件、活動・行催事17件、復興活動支援7件）を決定した。その後、第107回理事会（令和3年3月）に報告を行った。

（2）地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働し、次の事業を実施、企画した。

ア. 花と緑の交流広場「自然と人間との共生フェスタ in 和歌山」

助成事業の成果の波及及び地域で活動する団体との交流を目的に、和歌山県田辺市で地元団体である南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰会と共催で、「自然と人間との共生フェスタ in 和歌山」の企画、検討を行ったが、感染症の影響で昨年度に引き続き、中止した。

3. 普及啓発事業及び国際交流事業

(1) 花の万博 30 周年記念事業

ア. 花の万博 30 周年記念メモリアル展

1990 年の国際花と緑の博覧会の 30 年の節目として、花の万博理念の系譜と掘りかきを再認識することを目的に「花の万博 30 周年記念メモリアル展」を開催した。

日時：令和 2 年 11 月 17 日（火）～12 月 13 日（日）午前 10 時～午後 5 時

場所：咲くやこの花館「2 階展示室」

また、本展に併せて博覧会当時の資料やグッズ等の寄附を募り、約 150 点を受け付けた。

イ. 万博の桜 2025 事業

2025 年大阪・関西万博への期待感や機運を高め、関西の緑化環境の向上を目指す、募金による「2025 本の桜」植樹事業の実行委員会として、事業の広報及び寄附金受入れ事務を行った。なお、経費の一部として阪急電鉄株式会社からの寄附を充当した。

また、感染症の影響により、春に予定していた植樹式を次のとおり開催した。

日時：令和 2 年 11 月 21 日（土）午後 12 時 30 分～1 時

場所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

出席者：角 和夫（公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会理事長）

安藤 忠雄（万博の桜 2025 実行委員会委員長）

吉村 洋文（大阪府知事）

松井 一郎（大阪市長）

石毛 博行（公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会事務総長）

聖野あすか（宝塚歌劇団 2025 年日本国際博覧会アンバサダー）

他 宝塚歌劇団より 4 名

ウ. 花の万博 30 周年記念フォーラム「新しい緑のあり方を探る」

花の万博の 30 周年を記念し、公園や緑地の施策等に花の万博の成果が今も根づき広がっていることの検証や、異常気象の進行やコロナ禍で生活が変容する中で、今後の自然と人間の関わり方について、公園行政、パークマネジメント、緑化技術の三つの分野からの有識者の講演を、WEB形式にて開催した。

日時：令和 3 年 1 月 22 日（金）午後 1 時～4 時

主催：公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

共催：大阪府、大阪都市公園協議会

出演者：五十嵐康之（国土交通省都市局公園緑地・景観課長）

堀越 良一（大和リース株式会社執行役員大阪本店長）
木田 幸男（一般社団法人グリーンインフラ総研代表理事）
梶木 典子（神戸女子大学教授）

エ. その他

花の万博 30 周年を記念した各団体等の行催事等に協力した。

- ・花の万博 30 周年記念イベント「PARK JAM」（大阪市）
- ・「広報つるみ（花の万博特集号）」「つる魅力検定（花の万博クイズ）」
（大阪市鶴見区役所）
- ・「花ずきんちゃんパネル」等の設置（花博記念公園鶴見緑地指定管理者）

（2）次世代育成事業

実施を予定していた「自然観察教室」「小学校講師派遣」「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」は感染症の影響により中止した。「校庭・園庭における生態園づくり」については、令和 2 年度に設置した学校 3 校からの活動報告を受け、協会 HP に掲載した。

（3）花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施した。

（4）都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間（4～6月）」および「都市緑化月間（10月）」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力した。

（5）普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施した。

ア. はならんまん

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画した。

開催日：令和 2 年 11 月 21 日（土）～22 日（日）

主催：公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、大阪市

場所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

来場者：約 50,000 名

イ. 大阪都市緑化フェア

感染症の影響により中止した。

ウ. みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞）

感染症の影響により中止した。

(6) その他普及啓発事業

ア. 国際 WEB シンポジウム

「ウィズ/ポスト・コロナ時代」における自然と人間との共生のあり方を、コスモス賞歴代受賞者等有識者の知見から探るため、国際 WEB シンポジウム「持続可能な未来を拓く ～コロナ時代における自然と人間との共生～」を、米国・独国・日本を結び開催した。

日時：2021年2月3日（水）午後3時～午後4時（日本時間）

主催：公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）

出演者

パネリスト

グレッチェン・デイリー博士

（2009年コスモス国際賞受賞者、スタンフォード大学教授）

ヨハン・ロックストローム博士

（2015年コスモス国際賞受賞者、ポツダム気候影響研究所所長）

武内 和彦博士

（コスモス国際賞委員会委員、地球環境戦略研究機関理事長）

コーディネーター

井田 徹治

（共同通信社編集委員）

イ. 広報・報道活動等

- ・各事業の理解促進・普及を図るためホームページや SNS に事前告知や事業報告等を随時掲載した他、コスモス国際賞の受賞者のインタビュー映像を動画サイトで公開するなど、情報発信を行った。
- ・「自然と人間との共生」に関わる話題を提供する協会情報誌『KOSMOS』7号は、喫緊の人類社会の課題である感染症を考察し、ポストコロナを俯瞰したニューノーマルについて、2015年コスモス賞受賞者ロックストロー

ム博士、コスモス賞委員会委員武内和彦博士によるコラムを特集として発刊し、配付した。

- ・今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行った。

国・地方自治体等－10件、企業・個人－13件

- ・各種行催事等に別表2のとおり協賛・後援・会長賞の交付を行った。

(別表2)

催事名（開催時期）	開催場所	主催	名義等
令和2年度大阪府立花の文化園 「幼児・小中学生花の絵画展」 (R3.1.5～2.7)	大阪府立花の文化園 イベントホール (大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・ E-DESIGN 共同企業体	後援 会長賞
第75回日本おもと名品展 (R2.11.18～11.19)	刈谷市産業振興センター あいおいホール (愛知県刈谷市)	公益社団法人日本おもと 協会	後援 会長賞
令和2年度「都市緑化月間」 (R2.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛
小品盆栽フェア第29回春雅展 (R3.3.26～3.28)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール (大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品 盆栽協会	後援 会長賞

(7) 国際交流事業

「高校生のための生き物調査体験ツアーin台湾」は感染症拡大により、海外への渡航が困難になったため、中止した。

4. 調査研究・資料収集事業

調査研究については、他の収入方策並びに事業の波及効果を目的に、SDGs やメセナを積極的に行っている企業を対象として、協働、共催の連携を探る予定であったが、感染症の影響を鑑み、実施を見送った。

令和2年度

Ⅱ. 庶務・管理

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

1. 理事会、評議員会等

(1) 第 105 回理事会 令和 2 年 6 月 3 日 (水)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：令和元年度事業報告並びに収支決算について

特定資産の取り崩しについて

定時評議員会の招集について

出席等：提案書に対し、理事 7 名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(2) 第 106 回理事会 令和 2 年 12 月 14 日 (月)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：臨時評議員会の招集について

評議員会に提出する評議員候補者 (案) について

評議員会に提出する監事候補者 (案) について

出席等：提案書に対し、理事 7 名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(3) 第 107 回理事会 令和 3 年 3 月 18 日 (木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：令和 3 年度資産運用方針書について

特定資産について

特定費用準備資金の保有について

令和 3 年度事業計画及び収支予算について

顧問、参与の選任について

コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について

就業規則の改正及び在宅勤務規程の制定について

出席等：提案書に対し、理事 7 名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(4) 第 56 回評議員会 令和 2 年 6 月 25 日 (木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：令和元年度事業報告及び収支決算書類の承認について

特定資産の取り崩しについて

出席等：提案書に対し、評議員 13 名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、評議員会の決議があったものとみなされた。

(5) 第 57 回評議員会 令和 2 年 12 月 21 日 (月)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：評議員の選任について

監事の選任について

出席等：提案書に対し、評議員 12 名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、評議員会の決議があったものとみなされた。

2. 内閣府届出及び情報公開

令和 2 年 6 月に決議の省略により開催した理事会、評議員会における令和元年度事業報告及び収支決算、令和 3 年 3 月に決議の省略により開催した理事会における令和 3 年度事業計画及び収支予算、令和 2 年 12 月に決議の省略により開催した評議員会における評議員 1 名、監事 1 名の辞任就任について、それぞれ内閣府に届出を行った。

また、定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会ホームページにも掲載し、情報公開に努めた。

3. その他

第三者委員会として資産運用管理委員会を引き続き開催し、資産運用の業務状況を調査・確認し、代表理事に対して報告を行った。

令和2年度

Ⅲ. 財務諸表

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

貸借対照表

令和3年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	93,829,818	99,339,602	△5,509,784
未収金	0	230,990	△230,990
未収収益	88,419,410	54,620,895	33,798,515
流動資産合計	182,249,228	154,191,487	28,057,741
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	860,344,700	860,344,700	0
基本財産投資有価証券	29,655,300	29,655,300	0
基本財産合計	890,000,000	890,000,000	0
(2) 特定資産			
記念基金	10,250,700,227	9,469,708,582	780,991,645
退職給付引当資産	50,705,600	47,542,700	3,162,900
国際園芸博覧会出展事業積立資産	13,000,000	6,000,000	7,000,000
法人運営安定化資産	60,000,000	0	60,000,000
特定資産合計	10,374,405,827	9,523,251,282	851,154,545
(3) その他固定資産			
投資有価証券	1,737,136	2,979,898	△1,242,762
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	1,737,144	2,979,906	△1,242,762
固定資産合計	11,266,142,971	10,416,231,188	849,911,783
資産合計	11,448,392,199	10,570,422,675	877,969,524
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	7,868,034	11,198,452	△3,330,418
預り金	875,788	565,411	310,377
賞与引当金	3,395,500	3,265,932	129,568
流動負債合計	12,139,322	15,029,795	△2,890,473
2. 固定負債			
退職給付引当金	50,705,600	47,542,700	3,162,900
固定負債合計	50,705,600	47,542,700	3,162,900
負債合計	62,844,922	62,572,495	272,427
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000,000,000	10,000,000,000	0
基本財産運用益	90,000,000	90,000,000	0
特定資産運用益	800,000,000	800,000,000	0
特定資産評価差額金等	250,700,227	△530,291,418	780,991,645
指定正味財産合計	11,140,700,227	10,359,708,582	780,991,645
(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)	(890,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(10,250,700,227)	(9,469,708,582)	(780,991,645)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 一般正味財産	244,847,050	148,141,598	96,705,452
・(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
・(うち特定資産への充当額)	(73,000,000)	(6,000,000)	(67,000,000)
正味財産合計	11,385,547,277	10,507,850,180	877,697,097
負債及び正味財産合計	11,448,392,199	10,570,422,675	877,969,524

正味財産増減計算書

令和2年4月1日 から 令和3年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,949,508	3,367,111	582,397
基本財産受取利息	3,949,508	3,367,111	582,397
特定資産運用益	226,460,188	203,220,554	23,239,634
記念基金受取利息	226,438,089	199,494,273	26,943,816
特定資産受取利息	22,099	22,281	△182
記念基金投資有価証券売却益	0	1,554,000	△1,554,000
記念基金投資有価証券償還益	0	2,150,000	△2,150,000
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
雑収益	0	0	0
雑収益	0	0	0
経常収益計	234,409,696	210,587,665	23,822,031
(2) 経常費用			
事業費	85,230,304	172,974,348	△87,744,044
役員報酬	8,336,076	8,242,500	93,576
給与手当	33,646,803	34,670,356	△1,023,553
法定福利費	5,771,688	5,996,594	△224,906
退職給付費用	1,628,261	1,618,708	9,553
賃金	1,477,900	108,465	1,369,435
職員厚生費	130,141	121,801	8,340
会議費	43,263	1,642,620	△1,599,357
旅費交通費	32,312	5,505,499	△5,473,187
通信運搬費	1,289,143	2,291,737	△1,002,594
消耗什器備品費	206,062	18,854	187,208
消耗品費	1,128,808	1,379,249	△250,441
印刷製本費	914,617	1,496,700	△582,083
光熱水料費	2,326,654	2,382,605	△55,951
修繕費	100,100	0	100,100
役務費	98,560	37,408	61,152
委託費	7,437,035	27,520,480	△20,083,445
賃借料	4,151,003	4,462,980	△311,977
使用料	575,139	2,147,044	△1,571,905
保険料	213,472	213,472	0
諸謝金	2,208,069	5,707,030	△3,498,961
租税公課	2,100	18,536	△16,436
支払負担金・会費	5,325,809	13,123,899	△7,798,090
支払助成金	7,957,970	13,735,404	△5,777,434
支払手数料	219,486	362,075	△142,589

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
頭彩賞金	0	40,000,000	△40,000,000
雑費	9,833	170,332	△160,499
管理費	52,473,940	66,905,706	△14,431,766
役員報酬	3,572,604	3,532,500	40,104
給与手当	31,175,465	31,559,471	△384,006
法定福利費	5,969,647	5,982,506	△12,859
退職給付費用	1,534,639	1,494,192	40,447
賃金	633,385	46,485	586,900
職員厚生費	122,659	112,432	10,227
会議費	18,542	703,980	△685,438
旅費交通費	13,848	2,359,499	△2,345,651
通信運搬費	552,491	982,173	△429,682
消耗什器備品費	88,312	8,081	80,231
消耗品費	483,775	591,108	△107,333
印刷製本費	391,978	641,444	△249,466
光熱水料費	997,138	1,021,116	△23,978
修繕費	42,900	0	42,900
役務費	42,240	16,032	26,208
委託費	3,187,301	11,794,492	△8,607,191
賃借料	1,779,001	1,912,706	△133,705
使用料	246,488	920,163	△673,675
保険料	91,488	91,488	0
諸謝金	946,315	2,445,870	△1,499,555
租税公課	900	7,944	△7,044
支払負担金・会費	484,544	453,850	30,694
支払手数料	94,066	155,176	△61,110
雑費	4,214	72,998	△68,784
経常費用計	137,704,244	239,880,054	△102,175,810
当期経常増減額	96,705,452	△29,292,389	125,997,841
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	96,705,452	△29,292,389	125,997,841
一般正味財産期首残高	148,141,598	177,433,987	△29,292,389
一般正味財産期末残高	244,847,050	148,141,598	96,705,452
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
基本財産運用益	3,949,508	3,367,111	582,397
基本財産受取利息	3,949,508	3,367,111	582,397

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
特定資産運用益	539,448,851	241,526,035	297,922,816
記念基金受取利息	227,680,851	200,737,035	26,943,816
記念基金投資有価証券売却益	0	1,554,000	△1,554,000
記念基金投資有価証券償還益	311,768,000	39,235,000	272,533,000
特定資産評価損益等	469,223,645	△515,463,018	984,686,663
記念基金投資有価証券評価損益等	469,223,645	△515,463,018	984,686,663
一般正味財産への振替	△235,630,359	△211,808,146	△23,822,213
一般正味財産への振替	△235,630,359	△211,808,146	△23,822,213
当期指定正味財産増減額	780,991,645	△478,378,018	1,259,369,663
指定正味財産期首残高	10,359,708,582	10,838,086,600	△478,378,018
指定正味財産期末残高	11,140,700,227	10,359,708,582	780,991,645
Ⅲ 正味財産期末残高	11,385,547,277	10,507,850,180	877,697,097

正味財産増減計算書内訳表

令和2年4月1日 から 令和3年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,184,852	2,764,656	3,949,508
基本財産受取利息	1,184,852	2,764,656	3,949,508
特定資産運用益	158,522,132	67,938,056	226,460,188
記念基金受取利息	158,506,663	67,931,426	226,438,089
特定資産受取利息	15,469	6,630	22,099
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
経常収益計	163,706,984	70,702,712	234,409,696
(2) 経常費用			
事業費	85,230,304	0	85,230,304
役員報酬	8,336,076	0	8,336,076
給与手当	33,646,803	0	33,646,803
法定福利費	5,771,688	0	5,771,688
退職給付費用	1,628,261	0	1,628,261
賃金	1,477,900	0	1,477,900
職員厚生費	130,141	0	130,141
会議費	43,263	0	43,263
旅費交通費	32,312	0	32,312
通信運搬費	1,289,143	0	1,289,143
消耗什器備品費	206,062	0	206,062
消耗品費	1,128,808	0	1,128,808
印刷製本費	914,617	0	914,617
光熱水料費	2,326,654	0	2,326,654
修繕費	100,100	0	100,100
役務費	98,560	0	98,560
委託費	7,437,035	0	7,437,035
賃借料	4,151,003	0	4,151,003
使用料	575,139	0	575,139
保険料	213,472	0	213,472
諸謝金	2,208,069	0	2,208,069
租税公課	2,100	0	2,100
支払負担金・会費	5,325,809	0	5,325,809
支払助成金	7,957,970	0	7,957,970
支払手数料	219,486	0	219,486
雑費	9,833	0	9,833

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	52,473,940	52,473,940
役員報酬	0	3,572,604	3,572,604
給与手当	0	31,175,465	31,175,465
法定福利費	0	5,969,647	5,969,647
退職給付費用	0	1,534,639	1,534,639
賃金	0	633,385	633,385
職員厚生費	0	122,659	122,659
会議費	0	18,542	18,542
旅費交通費	0	13,848	13,848
通信運搬費	0	552,491	552,491
消耗什器備品費	0	88,312	88,312
消耗品費	0	483,775	483,775
印刷製本費	0	391,978	391,978
光熱水料費	0	997,138	997,138
修繕費	0	42,900	42,900
役務費	0	42,240	42,240
委託費	0	3,187,301	3,187,301
賃借料	0	1,779,001	1,779,001
使用料	0	246,488	246,488
保険料	0	91,488	91,488
諸謝金	0	946,315	946,315
租税公課	0	900	900
支払負担金・会費	0	484,544	484,544
支払手数料	0	94,066	94,066
雑費	0	4,214	4,214
經常費用計	85,230,304	52,473,940	137,704,244
当期經常増減額	78,476,680	18,228,772	96,705,452
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	78,476,680	18,228,772	96,705,452
当期一般正味財産増減額	78,476,680	18,228,772	96,705,452
一般正味財産期首残高	18,729,681	129,411,917	148,141,598
一般正味財産期末残高	97,206,361	147,640,689	244,847,050
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
基本財産運用益	1,184,852	2,764,656	3,949,508
基本財産受取利息	1,184,852	2,764,656	3,949,508
特定資産運用益	377,614,196	161,834,655	539,448,851
記念基金受取利息	159,376,596	68,304,255	227,680,851

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
記念基金投資有価証券償還益	218,237,600	93,530,400	311,768,000
特定資産評価損益等	328,456,552	140,767,093	469,223,645
記念基金投資有価証券評価損益等	328,456,552	140,767,093	469,223,645
一般正味財産への振替	△164,561,448	△71,068,911	△235,630,359
一般正味財産への振替	△164,561,448	△71,068,911	△235,630,359
当期指定正味財産増減額	546,694,152	234,297,493	780,991,645
指定正味財産期首残高	7,227,796,014	3,131,912,568	10,359,708,582
指定正味財産期末残高	7,774,490,166	3,366,210,061	11,140,700,227
Ⅲ 正味財産期末残高	7,871,696,527	3,513,850,750	11,385,547,277

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっている。

②満期保有目的の債券以外の有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

その他の固定資産

什器備品・・・定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、
期末要支給額を計上している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	860,344,700	660,000,000	660,000,000	860,344,700
投資有価証券	29,655,300	0	0	29,655,300
小 計	890,000,000	660,000,000	660,000,000	890,000,000
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
記念基金	9,469,708,582	5,979,143,645	5,198,152,000	10,250,700,227
退職給付引当資産	47,542,700	3,162,900	0	50,705,600
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	6,000,000	7,000,000	0	13,000,000
法人運営安定化資産	0	60,000,000	0	60,000,000
小 計	9,523,251,282	6,049,306,545	5,198,152,000	10,374,405,827
合 計	10,413,251,282	6,709,306,545	5,858,152,000	11,264,405,827

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	860,344,700	(860,344,700)	(0)	-
投資有価証券	29,655,300	(29,655,300)	(0)	-
小 計	890,000,000	(890,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
記念基金	10,250,700,227	(10,250,700,227)	(0)	(0)
退職給付引当資産	50,705,600	-	-	(50,705,600)
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	13,000,000	-	(13,000,000)	(0)
法人運営安定化資産	60,000,000	-	(60,000,000)	(0)
小 計	10,374,405,827	(10,250,700,227)	(73,000,000)	(50,705,600)
合 計	11,264,405,827	(11,140,700,227)	(73,000,000)	(50,705,600)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞顕彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフレシア(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第328回利付国債	29,655,300	30,434,880	779,580
小 計	29,655,300	30,434,880	779,580

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
特定資産及びその他固定資産			
記念基金及び投資有価証券			
第3回日本電産社債	100,204,087	101,290,000	1,085,913
第20回みずほ銀行劣後債	100,518,000	101,720,000	1,202,000
第41回阪急阪神HD社債	101,015,049	102,410,000	1,394,951
小 計	301,737,136	305,420,000	3,682,864
合 計	331,392,436	335,854,880	4,462,444

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単価:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	3,949,508
記念基金受取利息	227,680,851
受取寄付金	4,000,000
合 計	235,630,359

7 その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の大部分を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品(仕組債、仕組預金)のみであり、運用限度枠を設けている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

2. 金融商品の内容及びそのリスク

記念基金に含まれる投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券(仕組債)が含まれており、発行体の信用リスク、市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク)にさらされている。なお、当該投資有価証券には、リスクが高いものとして、中途解約が著しく制約されていることにより、満期到来までに資金化することが困難な流動性に乏しい債券(仕組債)4,621百万円が含まれている。

3. 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用管理規程及び資産運用基準に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	3,265,932	3,395,500	3,265,932	0	3,395,500
退職給付引当金	47,542,700	3,162,900	0	0	50,705,600

財産目録

令和3年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額		
(流動資産)	現金預金					
	現金	手元保管	運転資金として	123,019		
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運転資金として	74,978,706		
		三井住友銀行大阪公務部	運転資金として	14,062,406		
		三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運転資金として	2,202,863		
		三井住友信託銀行大阪本店営業部	運転資金として	2,462,824		
			現金預金合計	93,829,818		
	未収収益		公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	88,419,410		
流動資産合計				182,249,228		
(固定資産)	基本財産	定期預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	344,700	
				うち公益目的保有財産である	103,410	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	241,290	
		投資有価証券	三井住友信託銀行大阪本店営業部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	860,000,000	
				うち公益目的保有財産である	258,000,000	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	602,000,000	
		特定資産	記念基金	第328回利付国債	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	29,655,300
					うち公益目的保有財産である	8,896,590
					うち管理目的の財源として使用する財産である	20,758,710
					基本財産合計	890,000,000
	投資有価証券		関西国際空港20年債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	10,250,700,227	
				うち公益目的保有財産である。	9,245,106,227	
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	6,471,574,359		
	普通預金	第3回日本電産社債他	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	2,773,531,868		
			うち公益目的保有財産である。	300,000,000		
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	210,000,000		
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	90,000,000		
		りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	705,594,000		
			うち公益目的保有財産である。	493,915,800		
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	211,678,200		
	退職給付引当資産		50,705,600			
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	40,705,600		
	普通預金	三井住友銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	10,000,000		

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定 資産	国際園芸博覧会出 展事業積立資産			13,000,000
	普通預金	三井住友銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、北京国際園芸 博覧会事業の財源として管理している。	13,000,000
	法人運営安定化資 産			60,000,000
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、法人運営安定 化の財源として管理している。	60,000,000
				特定資産合計
	投資有価証券	第3回日本電産社債他 (オーバーパー部分)	公益目的事業及び管理目的の財源として 使用している。	1,737,136
			うち公益目的保有財産である。	1,215,995
		うち管理目的の財源として使用する財産 である。	521,141	
什器備品	花博会場模型等	公益目的事業及び管理目的の財源として 使用している。	8	
固定資産合計				11,266,142,971
資産合計				11,448,392,199
(流動負債)				
	未払金	令和2年度助成事業対象者に対 する未払額等	公益目的事業及び管理目的の業務等未払 い分	7,868,034
	預り金	役職員に対するもの	源泉徴収税等	875,788
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に従事 する職員の賞与の引当金である。	3,395,500
流動負債合計				12,139,322
(固定負債)				
	退職給付引当金	職員に対するもの	職員8名に対する退職金の支払いに備え たもの	50,705,600
固定負債合計				50,705,600
負債合計				62,844,922
正味財産				11,385,547,277

令和2年度

IV. 監査報告書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

監査報告書

令和3年5月24日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
会長 御手洗 富士夫 様

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

北山 諒一

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

崎 元利 樹

私たち監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他必要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上